

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	一般小売店〔土産〕（営業部長）	来客数の動き	・国内やインバウンドなどの入域観光客が増加している。
	○	一般小売店〔酒〕（店長）	販売量の動き	・景気は良くなっているが、物価高が収まらず所得が上がらないため高い商品が売れなくなっている。
	○	百貨店（経営担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークでファミリー層とインバウンド客が増加している。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・3か月前と比べると、来客数が増えていることから、身の回りの景気はやや良くなっている。その要因として、ゴールデンウィークによる需要増加と、例年より梅雨入りが遅かったことで人々の外出が促され、経済活動に良い影響を与えているとみている。
	○	家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・気温の上昇により、季節商材が大きく伸長している。
	○	その他専門店〔陶器〕（製造）	販売量の動き	・注文数に波がなく増えており、工房近くの人通りが多い。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	お客様の様子	・円安が影響し、外国人観光客が増え続けている。繁華街は連日にぎわっている。
	○	観光型ホテル（企画担当）	販売量の動き	・2月の販売室数が前年比6％増加なのに対し、5月は前年比23％増加と、プラス幅が大きくなっている。
	○	観光型ホテル（総支配人）	単価の動き	・販売価格の上昇傾向が続いており、値上げを行っているが消費者は離れていない。
	○	住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・賃貸物件の家賃が上昇傾向であることも影響しており、新築、中古住宅共に顧客の購買意欲は高いとみている。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・飲食店の出店が多く、物販の出店は少ない状態である。そのため、街中は飲食店が多くなり、物販業がやや衰退している。判断は難しいが、現状は一長一短であるとみている。
	□	コンビニ（経営企画担当）	来客数の動き	・観光客の増加に伴い、来客数も増加している。また、梅雨入りが遅れた影響で雨の日が少ないことが、前年同期よりも来客数が増加した要因となっている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高騰にもかかわらず、賃金が上がっていない人が多い。一方、店も商品の価格を上げざるを得ない状況である。そのため、以前よりも客が購入を迷う様子がみられる。
	□	旅行代理店（マネージャー）	単価の動き	・物価上昇は良い面もあるが、消費者の購買意欲が追い付かないほどの上がり幅は落ち着いてほしい。
	□	住宅販売会社（営業担当）	お客様の様子	・住宅やマンション取得に関する相談が継続的にきている。
	▲	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・物価上昇により客単価は上がっているが、来店頻度が減っている。売上は客単価の上昇により、前年比で辛うじて変わらないが、見通しは良くない。特に嗜好品に対する支出が控え気味である。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・生活必需品と同様に、車両購入においても金利の引上げや車両価格の上昇が続いており、消費者は購入に対して慎重な姿勢がみられる。
	▲	一般レストラン（代表者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークと母の日が過ぎた後から落ち着いている。
	▲	その他飲食店〔バー〕（経営者）	来客数の動き	・当店を含め、街全体に人の動きがなく、明らかに人出が減少している。
	▲	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来客数と販売数の減少がみられる。客の購買意欲も落ちている。
	×	－	－	－
企業 動向 関連	◎	－	－	－
	○	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼を3か月前と比較すると、公共工事は若干増加傾向であるが、民間工事は横ばいの状況である。

(沖縄)	○	建設業（経営者）	取引先の様子	・既存先だけでなく新規先からもマンションや事務所建設の見積依頼がきている。
	○	輸送業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年同月比で増収増益となっている。
	□	食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・観光客の増加により、観光及び業務関連の食品需要は増加しているが、米価格を始め食品の値上げの影響によりスーパーでの需要の動きが鈍い。
	□	会計事務所（所長）	それ以外	・為替や関税など国際情勢に大きく影響を受けている。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	求職者数の動き	・前月に増して2027年卒向けのインターンシップの案内を受けている。
	□	人材派遣会社（総務担当）	求職者数の動き	・求人数に対して応募者が少なく、人手不足が続いている。
	□	求人情報誌製作会社（審査）	求人数の動き	・5月はゴールデンウィークの影響により、サービス業界においては繁忙期に当たるため、求人需要の減少を予想していた。しかし、夏場の繁忙期に向けた人材確保の動きが活発であったため、求人件数は3か月前の水準を維持している。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人の動きに大きな変動がない。
	□	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・生活において物価高騰による消費の抑制が続いている。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—